

村川別荘脇の坂

北の鎌倉と呼ばれて

手賀沼の台地に別荘を構えていた村川堅太郎⁽¹⁾(東大名譽教授)は、平成3年に亡くなった。村川は、「旧我孫子宿本陣の一部であるこの建物を文化財として遺すように」と遺言を遺族に残していた。

これを受け、我孫子市は市民運動とともに、文化遺産として遺した。その後、歳時記に関する企画や郷土の歴史を知る行事を催す会場に使われ、旧村川別荘の存在が知られることになった。これに伴い、何時しか別荘の沼側の下にある坂を「村川別荘脇の坂」と呼ぶようになった。

「子之神入口」バス停から徒歩5分、「白山山延寿院甲子寺」、「子之神大黒天」⁽²⁾と刻まれた二本の石柱が建つ内からが参道である。今から50年ほど前までは鬱蒼とした巨木が立ち並んでいた。現在は左手に豪邸の塀が続き、右手沼側は眺望のよい住宅地になっている。山門右手に屋根付き引戸の風情のある門構えの屋根が旧村川別荘である。邸内の木々の間から朝鮮様式の反ったかたちの屋根が見える。

この坂は参道の中ほど右手にあり、戦前は別荘であった家もあり、庭も広く大樹が多い。

昭和17年2月、手賀沼に魅かれた俳人・石田派郷⁽³⁾は自著の随筆で回想している。友人の石塚友ら



と散策したとき、同行の島崎翁助(藤村の三男・画家)も眺めの良い手賀沼の光景に絵心が沸き、坂途中の家人の庭を拝借したいと申し出たことが記されている。その完成した作品は不明とされている。

坂を下りる左手に「世界一小さなチョウチョ園 青虫君のお家」がある。三角の土地にメルヘン調の家屋の出窓に本来の、蝶の羽化の様子を21年間にわたり児童らに見せ続けている。

建物の周囲はいつも四季の花々が咲き、出窓の下には童謡の『蝶々』を奏でる木琴が掛けられている。子どもだけでなく、子之神大黒天を詣でる大人にも好評である。

坂の上から見る光景は、かつて「北の鎌倉」と呼ばれたころの雰囲気がある。近くには画家で歌人の原田京平、工芸家の裕伊之助らが住み、三谷一二(元三菱鉱業会長)や島田久兵衛(薬問屋)らの別荘があった。

現在は旧道から先の沼辺は埋め立てられ、手賀沼ふれあいラインや若松地区と呼ばれる住宅地になっている。坂を下り東へ行くと、今も大きな屋敷を構える大塚家がある。屋号は与兵衛、手賀沼大橋が架橋されるまで、「与兵衛の渡し」の船頭を余業としていた。

村川別荘脇の坂は、対岸の村々から子之神大黒天を詣でる人々の参拜路でもあった。



- (1) 村川堅太郎(1907～1991)西洋史の大家。父の堅固も東大名譽教授で喜納治五郎との縁で別荘をもった。
- (2) 子之神大黒天 康保元年創建。
- (3) 石田派郷(1913～1969)水原秋櫻子の門下生、我孫子に度々来訪し、それを綴った随筆『我孫子』は代表作。「鶴」を主宰した。

発行元：NPO 法人あびこ・シニア・ライフ・ネット (通称アシラネ)

Hp：www.asln1.com

〒270-1122 我孫子市中里 335-1 JR 湖北駅北口スーパーマスタ 3F

Tel/Fax：04-7197-3308 (火曜～金曜 10:00～16:00)

Mail：asln.digital.ps@gmail.com

理事長 佐々木敏夫：04-7182-5719

便利屋事業 樋口邦平：090-2254-1559

デジタル塾 塾長 山本早苗：080-5402-6049

事務局長 カラオケ/囲碁 岩崎勇：090-9855-6288

広報担当 島田祐子：04-7185-8821